

漆容器としての須恵器―東広島市新建遺跡採集資料の報告―

川島尚宗

1. はじめに

本稿では、広島県東広島市に所在する新建遺跡にて採集された漆容器須恵器の報告をおこなう。今回報告する資料は、吉井宣子氏により1994年に採集されたものであり、現在は吉井氏より寄贈を受けて当館が所蔵している。

新建遺跡は、広島県東広島市西条町助実に所在する。採集資料はプラスチックコンテナ1箱分の分量があり、須恵器のほか、白磁の破片も含まれているため、採集地点の周囲には中世までの遺構が存在する可能性がある。採集地点の座標は、34.41837357353543, 132.76599358633445 で、斜面が崩壊した部分から資料を採集したとされる（第16図）。採集地点を現地確認したところ、湧水があり、丘陵裾部が崩れ落ちた状態であった。



第16図 東広島市新建遺跡の位置（地理院タイルを加工して作成）

- (1. 新建遺跡、2. 丸山神社古墳群、3. 松賀古墳、4. 松賀山遺跡、5. 丸山神社裏遺跡、6. 浄福寺遺跡、7. 龍王山古墳、8. 京塚古墳、9. 卯月城古墳群、10. 助平3号遺跡、11. 三ツ城古墳群、12. 前長者遺跡、13. 長者スクモ塚古墳群、14. 平木池遺跡、15. 陣が平西遺跡、16. 山中池南遺跡第2地点)

新建遺跡は西条盆地の北東部に位置する。周辺の古墳時代遺跡の概観をしてみると、当遺跡の北には、丸山神社跡古墳群が立地する。丸山神社群は測量調査がなされ、第1号古墳は採集資料の検討と合わせて、前期に属することが明らかにされている（藤野 2009）。有力首長層の古墳は、長者スクモ塚古墳群、三ッ城古墳群へと、西条盆地の中央寄りに位置するようになる。6世紀以降は、龍王山古墳など小規模な円墳が西条盆地東部にも築造されている。古墳時代後期の集落跡としては、前長者遺跡や助平3号遺跡が営まれている。やや離れるものの、広島大学キャンパス内において、須恵器生産にかかわる平木池遺跡、須恵器窯が検出された陣が平西遺跡・山中池南遺跡第2地点が存在する。前長者遺跡では古墳時代後期の住居跡より鍛冶滓が出土しており（濱岡 2020）、山中池南遺跡第2地点でも鍛冶関連の遺物・遺構が確認されている（藤野・楨林 2005）。

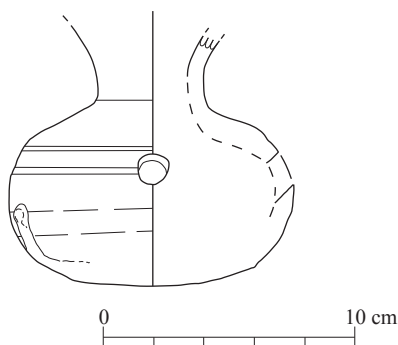
2. 報告資料について

本資料は甕の体部である（第17図、写真4）。口縁部及び頸部上部は欠損しており、残存高は11.0cm、体部最大径は11.3cm、頸部最小径は3.8cmである。底部付近から体部にかけて自然釉がかかる。本資料の時期は、形態からは中村編年のⅡ型式第5～6段階と考えられる。同時に採集された遺物については現在整理中であり、後に報告を予定しているが、長脚二段透かしと思われる高坏脚部が含まれていることから、本資料がⅡ型式第5段階に属する可能性もあろう。

内容物の分析とともに、炭素14年代測定をおこない、2 σ で600-651年に属するという結果が得られた（藤根ほか 2023）。1 σ では、606-626年の範囲におさまる可能性が高くなっている。須恵器編年との齟齬はないものと考えられ、供伴する遺物を考慮すると、6世紀末から7世紀第1四半期ごろととらえられるだろう。



写真4 東広島市新建遺跡採集甕



第17図 東広島市新建遺跡採集甕

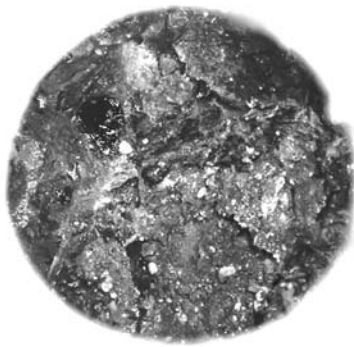


写真 5 甕内容物（上部より、左が注口部）

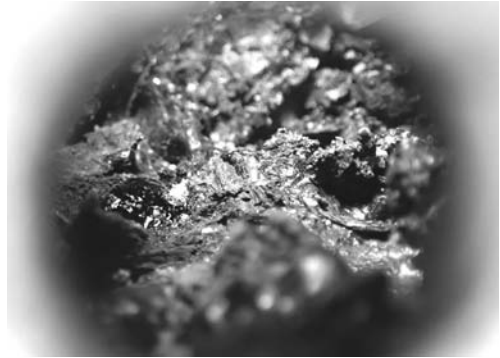


写真 6 甕内容物（注口部より）

須恵器の内容物については、本紀要の別稿にて分析結果を示している（藤根ほか 2023）。赤外分光分析の結果、ウルシオールが検出されたことから、内容物は漆であることが判明している（写真 5・6）。さらに、CT スキャンにて内容物を確認したところ、純粋に漆だけではなく、底部付近に砂礫を伴っていることが明らかとなった。

3. 漆容器としての須恵器

本報告資料より時期はやや下と思われるが、漆容器としての須恵器資料の類例として、7 世紀中頃の飛鳥池遺跡の工房跡出土資料がある。パレットとして利用された坏・皿のほか、運搬具としての平瓶・壺や貯蔵具である甕・横瓶が出土している（玉田 1995）。運搬具とされた資料の中には、縄や繊維が須恵器外面に固着しているものもあり、運搬時の様相がうかがえる。新建遺跡の資料外面には、それらの痕跡はない。甕という形態、そして上部が欠損していることから、本報告資料が漆容器として利用されたと考えられる。漆の分析用サンプルの採取時に、表面に植物片が観察されていることから（藤根久氏私信）、それらが容器の蓋として用いられた植物である可能性はあるだろう。CT 画像によると、内容物には漆とともに砂粒が認められている。漆は生漆と考えられることから、この砂粒が資料の埋没後に混入したものかどうか、検討が必要であると考えられる。

今回の報告では、漆容器の資料紹介のみとなった。当該時期の漆については、栽培・採集・加工の情報が少ないといえる。古代以降に漆の需要は高まるものと考えられるが、その前段階の資料として、本報告資料は重要な意味を持つと考えられる。本報告資料の時期には、西条盆地において須恵器生産や鍛冶などの活動が活発化しており、漆生産・加工もこのような生産活動の文脈で解釈できるものと考えられる。今後、新建遺跡採集資料の整理を通じて、古墳時代から古代における漆生産の解明に寄与できるものと考えられる。

謝辞

末筆となりましたが、新建遺跡採集の貴重な資料をご寄贈いただいた吉井宣子氏に感謝申し上げます。新建遺跡について、比治山大学安間拓巳教授、パレオ・ラボ藤根久氏、東広島市出土文化財管理センター石垣敏之氏・津田真琴氏より有益な情報をご提供いただきました。記して感謝申し上げます。

引用文献

- 玉田芳英 1995 「漆付着土器の研究」『文化財論叢Ⅱ 奈良国立文化財研究所創立 40 周年記念論文集』奈良国立文化財研究所創立 40 周年記念論文集刊行会 325-345 頁
- 濱岡大輔 2020 『前長者遺跡発掘調査報告書 2』広島文化財センター
- 藤根 久・伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadze 2023 「甕底部黒色付着物の材質分析と放射性炭素年代測定」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第 14 号 49-53 頁
- 藤野次史 2009 「東広島市丸山神社古墳群の測量調査」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』6 号 97-134 頁
- 藤野次史・榎林啓介 2005 『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—山中地区の調査—』広島大学埋蔵文化財調査室

Sue ware filled with lacquer found at the Shindate site, Higashihiroshima, Japan Takamune Kawashima

The shindate site is located at the eastern edge of the Saijo basin. Sue ware, haji ware, and some other pottery shards from later periods are collected at this site in 1994. It is notable that this collection contains *hasō*, a type of sue ware, filled with black material. Analyzed by Fujine et al. (this volume), it is revealed that the material is lacquer. This pottery belongs to the beginning of the 7th century, which is supported by the 14C dating. There are some Late Kofun sites that are engaged in the sue ware production and metallurgy, such as the Yamanakaike minami (2) and the Maechōja. Lacquer production and craft may be understood within the context of the trend of craft production in this period.